

## 事務職員に研修・勉強の機会を

現在の職場に正規事務職員として就職し、約3年が経過した。いまだに追い立てられるように仕事をしている自分がいささか情けないが、それでも少しずつ前進していると思う。前の仕事が書店員だった私は、法律の知識も全くなく、また心構えも中途半端だったため、働き始めた頃は戸惑いも多かった。

法律事務所職員

八田 由美子

### 研修を受けて

正規職員として働き始め、東弁の初級研修を受講するよう言われ、就業時間内に参加することができた。講義の内容で既に業務にあたっていた事柄については理解が深まり未然にミスを防止することに繋がった。担当したことのない事件についてはその後の事件処理に大いに役立った。今でも困ることがあると、研修のテキストと付属資料をひとつにまとめたファイルを確認のために見ることがある。同じ個所を何度も見ることがあり、情けなくなってしまうが…。

研修を受講できたのは、ひとえに事務所の理解と、一緒に働いている事務局の協力があっての事である。非常に恵まれた環境であることは言うまでもない。しかし、法律事務所働く全ての事務職員が研修を受けられるわけではない、ということと、現在の研修制度の確立には、長い時間をかけた諸先輩の努力があったことを知ったのは少しあとのことだった。

### 長い歴史の努力が実って

「法律事務職員」というものが職業として不安定な位置づけである、ということを今の職場に就職して初めて知った。日々の業務はとても責任が重く、また難しい事務依頼が多いにもかかわらず、それを担当する職員の地位は、私の目から見て、とても低いように思われた。しかし、日弁連が「認定制度」を設け、法律事務職員としての職業の確立や、地位向上に向け

た一歩を踏み出したことは、歓迎すべきことであり、とても意義のある前進だ。諸先輩方の努力が実り、長くこの仕事を続けたいと思っている者にとって心強いものではないだろうか。そして私もその恩恵をこうむり、日弁連の研修に参加した。

日弁連の月1回の研修は、東弁の研修のように「丁寧・実践向き」とはいかないが、参加している事務職員は熱意をもって受講しているように見受けられた。このあとに控えている試験も大事だが、この機会により多くの事務職員が参加できることが重要であると思った。

### 事務職員にとって弁護士は唯一の依頼者

と言った人がいると、日弁連の研修で聞いた。この言葉の真意を計りかねるが、依頼者の利益を第一に考える、といった意味であろうか？ 依頼者の求めに応じて質の高い仕事をする 것도利益につながるであろう。日々培われる経験も大事だが、基礎となる知識が必要ではないだろうか？ これは私の少ない経験から思うところではあるが…。

今後もより多くの事務職員が研修に参加することができ、「法律事務職員・パラリーガル」として自信をもって仕事ができるよう、願ってやまない。私も努力し続けるよう自らを律し、同じ職業として働く多くの仲間の役に立てるような人間になりたい。